

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	山形大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヤマガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	フィールドワーカー山形の企業の魅力(プレインターンシップ)
	学部・研究科等名	学術研究院(学士課程基盤教育機構)
	担当教職員名・役職	松坂暢浩・准教授山本美奈子・准教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	43
	受入企業等数	25
	受入企業等名	田宮印刷(株)、大場印刷(株)、(株)曙印刷、(株)カーサービス山形、(株)サニックス、(株)エム・エス・アイ、(株)朝日測量設計事務所、(株)アサヒマーケティング、(株)オネテック、(株)SRホーム、ホテルメトロポリタン山形、(株)セロン東北、(株)東北消防設備、(株)アイン企画、(有)長門屋、山形県中小企業家同友会、寒河江物流(株)、ハンズバリュー(株)、(株)大久保硝子店、吉田畜産(株)、(株)菊池技建(有)グッピー園、(株)ARRO WS、ソーラーワールド(株)、(株)アイ・タックル
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に、中小企業の社長から直接学ぶプログラムや現場で社員と一緒に通常業務に取り組む(営業同行など)プログラムを実施。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	山形について学ぶ必修科目の1つとして、地域の中小企業の魅力や働くことについて学び、またインターンシップのプレ体験として位置づけている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している 3.その他

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	参加者の追跡調査(インターンシップの影響や卒業後の進路等)を実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	昨年度履修した学生の体験談、ビジネスマナー講座、応募書類作成、連携団体による中小企業理解の講話および受入企業の企業研究を実施。併せて履修者全員と個別面談。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	個人での振り返りおよびグループでの振り返り、成果報告の準備(統一フォーマットのパワーポイントの作成)、受入企業を招いての成果報告会と振り返りを1日利用して実施。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生がインターンシップの就業開始前と就業後に学習サイト(ウェブクラス)を活用してメールにて状況報告を行い、報告に対して教員がコメントをする。受入企業には、教員が1日目と最終日にメールや電話などで連絡を行い状況を確認している。また履修学生の変化や進路について追跡調査を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	到達目標として設定している「インターンシップ体験を踏まえて、自分にとって働くことはどのようなことか」について文章で提出する。また「中小企業のイメージに変化」と「自己目標の達成度」を5段階で自己評価し、その理由を文章で提出する。また「社会人基礎力」(経済産業省、2010)と「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト(CAVT)」(下村他,2009)の変化をインターンシップ実施前後で測定。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間(事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本授業は、早期からの就業体験を通して、キャリア意識と学習意欲を高め、働くとは何かを考えてることを目的としている。そのため、事前事後学習の時間を多く取り、実施期間を3日間の短期としている。学生にも受入企業にも負担が少なく、年々参加者や受入企業も増えている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	連携機関である山形県中小企業家同友会と定期的に協議し、受入企業向けの説明会や受入先の選定、統一フォーマットによるプログラム作成を行っている。また受入企業への事後アンケート調査も実施している。学生の評価は、教員と受入企業がそれぞれ事前面談で学生の目標を確認し、それを踏まえて、インターンシップ中の評価を受入企業から所見(5段階評価とコメント)として提出してもらっている。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2016/10/07/1355719_001_1.pdf http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/internship/jirei/chiiki.html#03 http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2017/7sylla.htm
問い合わせ先	大学等名	山形大学
	担当部署名	学術研究院(学士課程基盤教育機構)
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	松坂暢浩
	電話番号	023-628-4128
	メールアドレス	gssyushi@jm.kj.yamagata-u.co.jp